

科目名	基礎漢方薬学		
英語名	Fundamental Kampo Pharmaceutical Sciences		
開講期	前期（春学期）火/3	選必区分	大阪医科大学薬学部（必修）・関西大学（選択）
単位	大阪医科大学薬学部 1・関西大学 1		
代表教員氏名	芝野 真喜雄		
代表教員以外の担当者			
授業の概要	<p>漢方医学は、古代中国医学を基盤に、多くの臨床経験を積み重ね、独自に発展してきた日本の伝統医学である。また、その信頼性の高さから医療用医薬品として148処方の漢方製剤が薬価収載されるに至っている。さらに、近年では漢方薬の重要性が増し、実に90%以上の医師が漢方薬の処方経験を持つ。すなわち、薬剤師はより専門的な漢方薬の知識が不可欠になっている。この授業では、薬学の立場から漢方薬を構成している個々の生薬の薬能について理解を深め、各漢方薬の特徴について漢方医学の観点から解説する。</p>		
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	<p>医療用漢方エキス製剤だけでも148処方にのぼる。臨床現場で使用される漢方薬を適切に使用、服薬指導するために、漢方薬の適用症や副作用などを覚えただけの知識ではなく、漢方薬を構成している生薬の作用や役割を理解することにより、「考え、応用できる漢方」の基礎知識が必要である。この授業では、個々の漢方薬について漢方医学的観点からそれらの特徴を修得する。</p>		
授業の方法	<p>教科書を用いて講義形式の授業（対面形式）で授業を行う。また、各回の講義後に症例演習を出題し考察する時間を設ける。</p>		
アクティブラーニングの取組	<p>各回の授業後半で、症例を出し、学生個々で治療薬を考える時間を設ける。また、2人から3人程度に治療方針を発表させる。また、漢方薬の副作用などについて調査し、課題レポートを作成する。課題例については、授業内で説明する。</p>		
成績評価	<p>大阪医科大学薬学部：定期試験結果（80%）、課題レポート（20%）により評価する。 関西大学：6回以上の授業出席者に対して、最終レポート（50%）、出席状況（50%）により評価する。</p>		
試験・課題に対するフィードバック方法	<p>試験答案を開示し、再試験受験対象者には解説を行う。（各レポートの採点結果も開示する。）</p>		

実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容			
SDG s 17 の目標との関連			
3.すべての人に健康と福祉を／12.つくる責任 つかう責任			
関連する科目			
教科書・参考書等（書名・著者・出版社）			
教科書	『ミニマムファクター漢方生薬学（第3版）』・芝野真喜雄・京都廣川書店		
参考書	『図解漢方処方のトリセツ』・川添和義・じほう 『エビデンス・ベース 漢方薬活用ガイド』・松原和夫、伊藤美千穂・京都廣川書店		
授業計画			
回数	項目	到達目標・授業内容・コアカリ番号	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	漢方医学の歴史と基礎 陰陽、五行論、気血水、五臟、八綱	漢方と中医学の歴史や特徴、陰陽、虛実、寒熱、表裏、気血水、証など 漢方の基本用語を解説する。	予習：項目に挙がっている内容について教科書の基礎理論編を熟読し、概要などの基本事項を確認しておくこと。（2時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、復習用の授業動画を視聴すること。（2時間）
2	六病位とかぜ治療に用いられる漢方薬：葛根湯、麻黃湯、麻黃附子細辛湯	かぜ治療に用いられる漢方薬の構成生薬の特徴と六病位との関連を解説する。	予習：授業項目に相当する漢方薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（2時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、復習用の授業動画を視聴すること。（2時間）
3	水（津液）に関する生薬、 漢方薬：五苓散、麦門冬湯 など	利水剤および滋陰剤に分類される漢方薬の構成生薬の特徴と使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する漢方薬の解説を読んで概要など

			<p>の基本事項を確認しておくこと。(2時間)</p> <p>復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、復習用の授業動画を視聴すること。(2時間)</p>
4	血に関する生薬、漢方薬： 桂枝茯苓丸、当帰芍药散など	補血剤および駆瘀血剤に分類される漢方薬の構成生薬の特徴と使用上の注意について解説する。	<p>予習：授業項目に相当する漢方薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。(2時間)</p> <p>復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、復習用の授業動画を視聴すること。(2時間)</p>
5	気に関する生薬、漢方薬： 六君子湯、補中益氣湯、半夏厚朴湯、平胃散など	補氣剤および理氣剤に分類される漢方薬の構成生薬の特徴と使用上の注意について解説する。	<p>予習：授業項目に相当する漢方薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。(2時間)</p> <p>復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、復習用の授業動画を視聴すること。(2時間)</p>
6	寒熱に関する生薬、漢方薬 1：八味地黄丸、大建中湯、吳茱萸湯など	温裏補陽剤に分類される漢方薬の構成生薬の特徴と使用上の注意について解説する。	<p>予習：授業項目に相当する漢方薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。(2時間)</p> <p>復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、復習用の授業動画を視聴すること。(2時間)</p>
7	寒熱に関する生薬、漢方薬 2：黃連解毒湯、白虎加人參湯など	清熱剤に分類される漢方薬の構成生薬の特徴と使用上の注意について解説する。	<p>予習：授業項目に相当する漢方薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。(2時間)</p> <p>復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。ま</p>

			た、復習用の授業動画を視聴すること。(2時間)
8	その他の処方：芍薬甘草湯、大黃甘草湯、酸棗仁湯、加味帰脾湯、抑肝散、釣藤散など	現代医療において頻繁に使用される漢方薬について、その特徴と使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する漢方薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。(2時間) 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、復習用の授業動画を視聴すること。(2時間)